

「冬芽の観察」

環境アドバイザー 谷合 宣明

対象 森の子くらぶ（市内小学4年～6年）24人

所要時間



120分

場所 新座市立新開小学校学校林

実施時期

令和3年1月29日

概要

グループ毎に A4 用紙に 3×3 のビンゴ枱を作り、各枱に冬芽や葉痕等の 8 種類の写真を用意する。林内の樹木の冬芽や葉痕を虫眼鏡を使ってよく観察し、シート内のどれに当たるかを探し当てながらビンゴを完成させる。中央のますは空欄にしておきグループ内で相談して 1 番印象が強かった物をスケッチしてビンゴを完成させる。

プログラムのねらい

木の種類によって冬芽の形や大きさ、葉痕の形や模様の違いがある事を確認する。冬芽や葉痕を観察することで木の種類を特定することが出来ることに気がつく。寒い冬の間、樹木は冬眠していること無く、春の芽吹きに向けてしっかり準備していることに気がつく。

プログラムの内容

1 (20分)

虫めがね、ビンゴシートの配布、ビンゴゲームの進め方 虫めがねの使い方を具体的に説明し、実際にやってみる。

2 (50分)

グループ内で班長を決めて、ビンゴの用紙を管理させる。全員でまとまって観察を始め、ビンゴ枱のどれに当たるかを決めてゆく。全員で同じ物を観察し 1 つ 1 つ決めるようにする。8 つの枱の物が全部確定し終わったら、中央の空欄に何が 1 番印象が強かったかを話し合いスケッチをして終了する。寒いので休憩を兼ねて(20分)程度の身体を動かすゲームをする。

3 (20分)

グループ毎にビンゴの成果を発表し、最後に中央のスケッチの説明をする。

4 (10分)

発表終了後に植物の冬芽の状態や葉痕の模様の違い等の説明をして終了する。

受講者の反応

- ・冬の芽は木によって違うことが分かった。
- ・寒い冬なのに芽が成長しているのにはびっくりした。冬眠していると思っていた。
- ・葉っぱを落としても、また同じ葉っぱが出来るなんてすごいと思った。
- ・寒くてじっくり観察できなかった。 等有り

